

学生会員沖縄地区研修 2024

沖縄地区研修 2024 事務局

(一社)防衛施設学会では、令和元(2019)年度から学生会員に対するスカラシップ制度の創設に向けた取り組みを開始しており、その一つとして次代を担う若者の安全保障意識を涵養し、防衛基盤の育成に寄与する観点から、学生会員を対象とした現地研修を行っている。一部の方からは、学生研修の効果について懐疑的な意見も寄せられているが、学生会員の安全保障政策、防衛施設技術に関する理解を深めていくための一プログラムとして実施しているところであり、研修生諸氏が、将来の我が国を担う次世代として成長することが期待されているところである。

令和6(2024)年度は、4月から研修員の公募を学会ウェブサイトにて開始したところ、各地の学生会員から多くの応募があり、5月下旬に6名の研修員を内定した。

学生会員6名が沖縄地区を実地研修

沖縄本島には陸上・海上・航空自衛隊の駐屯地・基地、在日米軍基地が近在して所在するため、比較的短時間でこれら施設の訪問研修が可能であることから、今回も沖縄地区が研修先として選ばれたものであり、防衛省沖縄防衛局、陸上自衛隊第15旅団、海上自衛隊第5航空群、航空自衛隊南西航空方面隊、合衆国空軍第18施設群、SAME Japan Postの協力を得て、令和6(2024)年8月28・29日に学生会員沖縄地区研修2024を実施した。

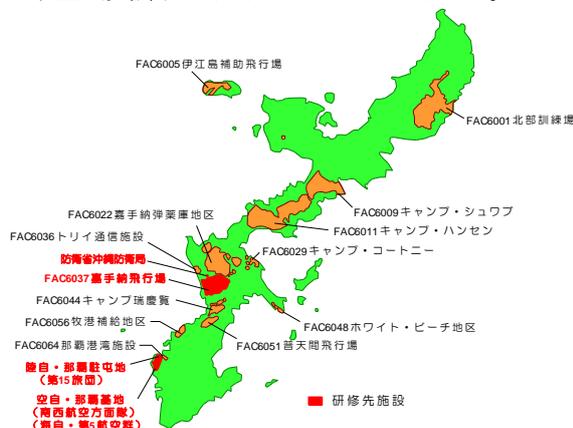


図 沖縄本島内の主要防衛施設と研修先の位置関係

■第1日目 8月28日

研修初日の8月28日午前8時20分、那覇新都心のおもろまち駅前ロータリーに集合した6名の研修生及び引率の研修団長 高橋理事と学会事務局同行者は、本研修最初の研修先である防衛省沖縄防衛局に向かった。



写真-1 移動中の車内

▶沖縄防衛局研修

沖縄防衛局 里玄関で総務部報道室担当者の出迎えを受け、案内された講堂で学会事務局から研修のオリエンテーリング、諸注意事項の説明、研修員の自己紹介等が行われた。



写真-2 防衛省沖縄防衛局玄関前にて(中頭郡嘉手納町)

嘉手納基地近隣地に所在し、沖縄県全域を担当する防衛省の地方支分部局である沖縄防衛局では、総務課長から沖縄防衛局全般業務の概要を、地方調整課長から沖縄県内における米軍施設・区域の返還への取り組み状況、南西諸島への警備部隊等の配備計画概要を、三沢調達部長から南西諸島へ

の自衛隊の部隊配備の為の工事状況への取り組みや大陸側から見た日本列島、南西諸島の地理的位置と安全保障環境の変化等について、約1時間説明が行われた。沖縄地域の状況が本土ではあまり報道されないこと、軍事と民事がデュアル・ユースの関係にあること等を念頭に、理系・文系の両方の見方をミックスして安全保障問題に関心を持つことが大切等のアドバイスを受けた。

防衛局研修により、南西地域の厳しい安全保障環境の現状と防衛施設の概観について研修生の理解が進んだものと思われた。(写真-2・3)



写真3 沖縄防衛局研修

▶合衆国空軍嘉手納基地研修

沖縄防衛局の研修終了後、沖縄県中頭郡嘉手納町・沖縄市・中頭郡北谷町にまたがり、総面積約19.86km²、3,700mの滑走路2本を有する第5空軍(横田)の管轄下にある極東最大、在日米空軍最大の基地、嘉手納基地²⁾第1ゲートに向かい、SAME Japan Postの協力により、第18施設群(18th Civil Engineer Group: 18 CEG)第718施設中隊(718th Civil Engineer Squadron: 718 CES) シュチェパニック少尉(Lt. Szczepanik)のエスコートで嘉手納基地に入門した。

第18施設群は、米国空軍最大の施設部隊で、嘉手納基地内施設の爆発物処理、消防、緊急サービス、環境保護、保守及びごみ処理契約、沖縄本島全体の米軍住宅及び住宅保守、基地インフラの管理を任務としているという。

到着後、Banyan Tree Golf Course, Tee House で718CES、SAME Japan Postメンバーと昼食を共にし、Lunch Meetingを楽しんだ。昼食会は718CES クック・ローザ少尉(Lt. Cook Rosa)の司会で開始され、英語による自己紹介、第18施設群の業務概



写真4 Lunch Meeting (Tee House, Banyan Tree Golf Course)



写真5 Tee Houses テラスにて

要、同席したMLC日本人従業員諸氏と嘉手納基地等の話題で盛り上がった。(写真4・5)

昼食後、嘉手納弾薬庫地区内の訓練場へ移動し、第18施設群隷下の第18施設中隊・即応緊急事態管理小隊(18 Civil Engineering Squadron, Readiness and Emergency Management Flight, Dirt Boys)による装備品の展示説明、滑走路被害復旧手順を見学した。攻撃により破壊された滑走路の応急復旧は、



写真6 滑走路応急復旧機材の見学

爾後、戦力発揮の基盤として作戦用航空機の離発着を可能にさせるための重要な要素であることから、Dirt Boys が応急被害復旧を行うとのことであり、各研修員は初めて見る機器に興味深く説明を受け、実際に機材に体験乗車した。(写真-6)

その後、基地内に戻り、18 CES, Readiness and Emergency Management Flight 事務所内の Unit Control Center で担当の女性下士官から CBRN 対処能力と装備機材の説明を受けた。(写真-7)



写真-7 装備機材の説明

これで嘉手納基地の見学を終わり、718CES の部隊章を記念にいただき、部隊章を腕につけた写真撮影ののち嘉手納基地を後にした。(写真-8)



写真-8 部隊章を腕に 718CES 小隊事務所前にて

第2日目 8月29日

第2日目も前日と同様におもろまち駅前に集合し、那覇空港に隣接した陸海空の三自衛隊が所在する那覇駐屯地、那覇基地を研修した。

▶陸上自衛隊那覇駐屯地研修

陸上自衛隊那覇駐屯地に到着後、第15旅団³駐屯地講堂横にて記念撮影。

昨年度は広報資料館「鎮守の館」において、戦

史模型、展示資料等の研修を行ったが、今回は同館がリニューアルのため休館中で、研修会場とされた講堂において第15音楽隊の歓迎演奏で、①陸上自衛隊50周年記念曲「行進曲 凱旋」、②涙そうそう、③心のひとみ、の3曲を鑑賞した。

その後、第15旅団施設課長 森口 2 陸佐から南西地域の安全保障環境、陸上自衛隊・第15旅団の概要等の説明を、第101不発弾処理隊から不発弾処理状況等の説明を受けた。(写真-9~11)

概況説明中にも不発弾処理隊の緊急車両の出動があり、沖縄戦の負の遺産の一つとしての不発弾



写真-9 那覇駐屯地講堂横展示戦車前にて



写真-10 第15音楽隊の歓迎演奏会



写真-11 第15旅団施設課長による概況説明

処理の現状に関する第 101 不発弾処理隊の説明に研修生の関心は高く、戦後 79 年を経過した現在も年間平均出動約 600 件、約 15t の不発弾を処理している状況に研修生は驚いていた。(写真-9～11)

概況説明後、施設隊駐車場地区に移動し、第 15 施設隊の持つ装備品を見学。第 15 施設隊は、陣地構築、障害構成、障害処理、交通作業、渡河作業といった施設作業を実施する旅団唯一の施設科部隊であり、オペレーターから各種施設機材について説明を受けるとともに、資材運搬車の体験試乗が行われた。さらに訓練場地区では、整地作業の状況を見学した。(写真-12・13)



写真-12 第 15 施設隊の装備品展示説明



写真-13 第 15 施設隊整地作業状況見学

▶海上自衛隊那覇航空基地研修

陸上自衛隊研修の後、海上自衛隊と航空自衛隊の活動拠点である那覇基地に向かい、まず海上自衛隊研修が実施された。

海上自衛隊那覇航空基地群庁舎地区では、海上自衛隊の広報ビデオを視聴して海上自衛隊に対する理解を深めた後、哨戒機 P-3C を運用する第 5 航空群⁴⁾司令部から南西諸島地域の現状、第 5 航空群の任務や活動状況に関する概況説明を受けた。

概況説明の後、隊員食堂で隊員と同一メニューの部隊食（うなぎ御飯）を体験喫食した。(写真-14～16)



写真-14 海上自衛隊第 5 航空群による概況説明



写真-15 体験喫食（海上自衛隊隊員食堂）



写真-16 当日の昼食・うなぎ御飯

昼食後、資料展示室を見学し、展示資料の見学や制服上衣・制帽を試着し、気分は海上自衛官に。



写真-17 第 5 航空隊クルーによる P-3C 哨戒機の説明

その後、エプロン地区へ移動し、第5航空隊のP-3C哨戒機を見学。今回も機内見学が許可され、クルーから機体各部の説明を受けた。自衛隊の装備品に関する研修生の関心は高く、クルーに対し多くの質問が出されていた。(写真-17～20)



写真-18 P-3C哨戒機機内を見学



写真-19 P-3C哨戒機のフライトステーション
(海上自衛隊第2航空群ツイッター(X)⁵ から転載)



写真-20 P-3C哨戒機をバックに (海上自衛隊那覇航空基地)

▶航空自衛隊那覇基地研修

海上自衛隊研修の後、今回最後の研修として航空自衛隊地区へ移動、第9航空団司令部渉外室会議室において第9航空団から航空自衛隊那覇基地

の現状や役割、南西空域における航空自衛隊の活動状況等についての概況説明を受けた。

近年、中国の活動が活発であり、各方面隊区の中でも特に南西域における緊急発進回数が突出している状況説明を聞き、研修生は改めて国際環境の厳しい現実を理解したようである。

その後エプロン地区に移動し、航空自衛隊の主力戦闘機である第9航空団のF-15J戦闘機を見学。各自コックピットに搭乗し、パイロットから機体や装備品の説明を受けた。実運用の機体を間近に見学する機会は限られることから、研修生の関心は高く、P-3C哨戒機同様多くの質問が出され、説明者は、質問に対し簡明かつ丁寧に答えていた。

(写真-21～23)



写真-21 第9航空団の概況説明



写真-22 F-15J戦闘機の説明 (航空自衛隊第9航空団)



写真-23 F-15J戦闘機をバックに (航空自衛隊那覇基地)

F-15J 戦闘機の見学後、慶良間諸島を遠望できる那覇基地内の高台にある旧小禄海軍砲台跡を見学した。この砲台は、第2次大戦中に海軍第226設営隊（長：山根巖技術中佐）によって整備された15糎（センチ）水上砲台6基中の1基で、この1基のみ当時の姿をとどめているが、他は原形をとどめぬまでに破壊されたという。（写真-24）



写真-24 旧小禄海軍砲台跡にて（航空自衛隊那覇基地内）

▶那覇空港で解散

航空自衛隊研修を終了後、那覇基地を退出して那覇空港に移動。研修は空港で解散となり、二日間にわたる慌ただしかった学生会員沖縄地区研修2024は終了した。（写真-25）

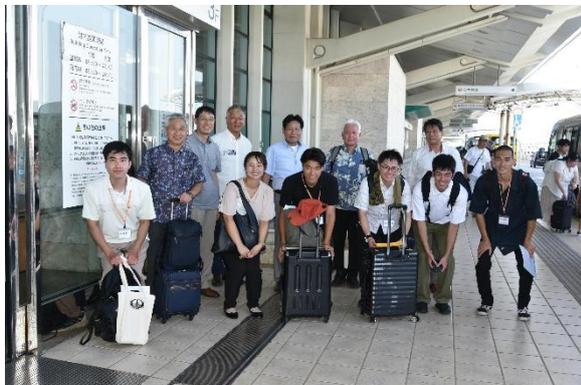


写真-25 夕刻の那覇空港で解散

研修後に回収されたアンケートには、「普段は入ることのできない基地内の見学をすることができたのが非常に良かった。」「今まで学校教育やメディアを通じた情報しか知らなかったが、沖縄を中心とした地図を見て、自分の無知を痛感すると同時に新しい視点ができ、もっと関心を持ち、自ら学びにいかねばならないと思った。」「防衛省と現場、どのような成果や苦労があるのかを知ることができた。防衛行政の観点から沖縄を見ることに興味を持った。今後も沖縄に関する安全保障

の進展について注視したい。」「先の大戦で使用されていた兵器を見ると、79年前、鉄の暴風と称された沖縄の地で生きていた人々に思いを馳せ、平和への思いを新たにしたい。大規模な地上戦闘があった沖縄で戦争の悲惨さや恐ろしさを再認識し、大きな犠牲の上に生きていることを痛感した。二度と同じことを繰り返さないためにもより一層抑止力を強化していくことが重要であり我が国の主権を守るためにも必要不可欠であると考えた。」という感想があった一方、「概要説明の後に、さらに質問する時間、意見交換できればいいと感じた。2、3人の質問で終わってしまった説明もあったので、1人1回発言できる機会があったらよい。それぞれのオリエンテーションを10分くらい伸ばせればいいと思う。」「米軍で働かれている日本人との交流も大変有意義な時間であったが、米軍の方々とももっと交流したかった。」「常に時間が押していた」という今後の研修実施上の課題に関する感想もあった。



写真-26 事前配付された各種研修資料

沖縄地区研修2024は、令和6年台風10号（サンサン：Shanshan）の進路に悩まされ、利用航空便に影響が出た方もいたと思われるが、研修当日は両日ともに天候に恵まれ、夏真っ盛りの中での実施となり、事故等もなく無事、研修を終了することができた。

各研修生は、事前配布資料等を基に研修に臨んだものと思われるが、百聞は一見にしかずの諺にもあるように、実地に自衛隊那覇基地、那覇駐屯

news

地、合衆国空軍嘉手納基地を研修したことは、研修生の貴重な体験になったものと思われる。

研修生には、成果報告としてレポートの提出を義務付けているところであり、本号 Contribution 欄に各研修員のレポートを掲載しているのです、本稿と併せて是非御一読いただきたい。

なお、アカデミック・フリーダムの観点から、レポートは著作者の主義主張について自由な記述としており、内容、表現等は研修員個人の意見で、当学会の見解を代表するものではないことを申し添える。

研修事務局としては、研修生諸氏等の意見も参考に、今後も必要に応じて改善を行い、より良い研修としていくこととしたいと考えている。

謝辞

本研修の実施に当たり、御支援、御協力いただいた防衛省沖縄防衛局、陸上自衛隊第15旅団、海上自衛隊第5航空群、航空自衛隊南西航空方面隊、合衆国空軍第18施設群、SAME Japan Post の皆様に深甚なる謝意を申し上げます。

参考

- 1 沖縄防衛局ウェブサイト、<https://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/>
- 2 合衆国空軍・嘉手納基地ウェブサイト、<https://www.kadena.af.mil/>、第18施設群 <https://www.kadena.af.mil/Units/18th-Civil-Engineer-Group/>
- 3 陸上自衛隊第15旅団ウェブサイト、<https://www.mod.go.jp/gsdf/wae/15b/15b/>
- 4 海上自衛隊第5航空群ウェブサイト、<https://www.mod.go.jp/msdf/naha/>
- 5 海上自衛隊第2航空群ツイッター (X)、https://x.com/jmsdf_2aw/status/1425939672262348800/photo/1
- 6 航空自衛隊那覇基地ウェブサイト、<https://www.mod.go.jp/asdf/naha/index.html>

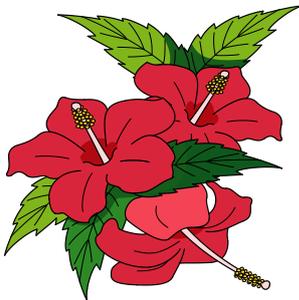


写真-27 航空路から見た嘉手納基地 (2023.8)



写真-28 航空路から見た那覇空港・那覇駐屯地・那覇基地 (2023.8)

